



厚生労働省 健康局長 優良賞

北大阪健康医療都市(健都)のまちづくり ～健康づくりと医療イノベーションの好循環～

受賞者 吹田市(大阪府)



● 北大阪健康医療都市を中心とした健康・医療のまちづくり

背景·概要

吹田市では、平成25年6月の国立循環器病研究センター(以下「国循」)移転決定を機に、「健康・医療のまちづくり」基本方針を策定し、循環器病予防のまちづくりの「吹田モデル」の創成による健康都市を目指している。北大阪健康医療都市(以下「健都」)では、健都ならではの特徴を活かし、(1)健康的なライフスタイルを無理なく生活の中に取り込めるような社会的・環境的アプローチ「くらしにとけこむ健康づくり」と、(2)産学官民が連携した「まちぐるみでの予防・健康づくり」に取り組んでいる。

取組內容

●くらしにとけむ健康づくり 多様な主体の連携や柔軟な発想により、健康無関心層を含む地域住民の健康的な行動を促す取組を展開している。健都レールサイド公園では、市民自ら予防・健康づくりを実践できる場として、国循などの監修の下、多くの健康遊具やウォーキングコースを整備しており、隣接する健都ライブラリーとともに指定管理者による一体的な管理運営を行い、来館者が健康に「気づき」、「楽しみ」ながら「学べる」、健康教室や運動プログラムを開催。地域包括支援センターや近隣大学との連携で、高齢者や大学生との共同プログラムも実施しており、多世代交流・生涯活躍の場としても活用している。

●まちぐるみでの予防・健康づくり 研究機関や企業、地域団体などと連携し、新しい技術や知見を活用した取組を展開している。

心不全重症化予防対策として、国循、市医師会との共同で取り組む健都循環器病予防プロジェクトでは、市の健診受診者のうち研究同意者に対し、国循が開発したリスクスコアとBNPに基づくリスク別のスクリーニングや保健指導を実施。さらに、LINEを活用して、地域実証への参加募集や健康情報の発信などを行う会員制度を運用し、産学官民連携の促進や、学校給食を通じた親子二世代の食育を目的とした国循との共同研究による減塩メニューの提供、小売業者と連携した家庭への啓発にも取り組んでいる。

成果

●健康がテーマの図書館「健都ライブラリー」 健都ライブラリーは、医療やスポーツに関する本を集めた「健康・医療・スポーツコーナー」や、血圧計や体組成計が設置された「健康応援コーナー」があり、指定管理者による健康教室や多様な運動プログラムとあわせて、来館者が自然と健康に触れる機会を提供している。(健康教室等：1,097回、参加人数：計9,657人。令和3年度実績)

●健都循環器病予防プロジェクト 令和2年11月から令和4年7月までで延32,000人が参加し、延1,000人に保健指導を実施。心不全という切り口で研究機関・地域医療機関と連携して取り組み、保健指導への高い参加率(対象者の約3割)、多い新規参加者(参加者の約半数が保健指導を受けた経験なし)、低い脱落率(3か月の個別保健指導参加者の約5%)となっている。

今後、参加者の健診などの情報や予後情報を分析することで、事業の改善を図るとともに、市の財政面に与える影響についても分析予定である。

- 健都ヘルスセンター制度を通じた地域実証など** 産学官民連携の取組において、地域実証への参加募集や健康情報などの発信を、LINEにより行う会員制度を令和4年3月に開始(登録者1,037人 ※令和4年11月末日現在)。

また、駅前商業施設に入っているフィットネスクラブをはじめ、同年8月までに企業による実証事業(100人規模)を3件実施。

評価委員による講評：下光 輝一

従来の教育的・啓発的なアプローチのみでは健康づくりの成果がなかなかあがらない現状の中で、行政が、我が国の医療研究のトップレベルにある国立循環器病研究センターの全面的な支援を受けて、医師会と連携しつつ、地域住民の予防医療と健康の推進を「まちづくり」という環境整備の観点からアプローチを行うという新たな試みであり、高く評価したい。将来は全国に展開していかなければならない活動であり、その成果が期待されます。また、市民の健康教室や運動教室も多様で、図書館(健都ライブラリー)を健康づくりの拠点としている点もユニークです。



↑健都レールサイド公園



↑健都ライブラリー



◀ 健都循環器病予防プロジェクト 参加者説明資料